

食品ロスとは

食品ロスとは、「本来食べられるのに捨てられてしまう食べ物」のことです。日本の食品ロスは約612万トン(2017年度)にもなります。これは国民一人ひとりが、毎日茶わん一杯分のごはんを捨てているのと同様計算です。国連が世界中で食べものに困っている人に援助している量は、年間で約380万トンです(2017年国連世界食糧計画(WFP)による)。その1.6倍の量の食べものが、日本だけで捨てられているのです。



減らそう! 食品ロス



612万トンって、ごみ収集車(2トン車)で300万台以上になるのか。うわあ、もったいないね。



「何となくもったいない」だけではなく、食品ロスはさまざまな問題を含んでいます。



食品ロスの何が問題なの?

食品ロスはさまざまな面で問題を引き起こしますが、きちんと対応して食品ロスをなくせば、状況は改善できます。

食べものを作るのにかかるお金を節約することができます。

ごみが減り、自然環境を守ることができます。

家庭でできること



食品ロスの半分近くは、家庭から出ています。一人ひとりが工夫や努力できることはたくさんあるんですよ。

作りすぎない、食べ残さない



買いすぎない、計画的に買う



ほかにはどんな工夫ができるかな?



ゲームで学ぶ食品ロス

外食産業の立場から、「どうすれば食品ロスを減らせるか」を学ぶことができるカードゲームがあります。これは当時小学六年生だった栗田哲さんが開発し、改良を重ねて製品化されたものです。

食べ残しNOゲーム

©栗田哲/未来情報創造大学校



プレイヤーがそれぞれ食べ物屋さん(パン屋さん、ラーメン屋さんなど)になり、できるだけお客さんの食べ残しが少なくなるように、お店を上手に経営することを競うゲームです。NPO法人によって出張授業なども行われています。